

『ひがなか』の子どもたちが大活躍!!

STEP UP!!



当会は国土交通省中村河川国道事務所と共催で、平成18年度からツルの飛来地である東中筋地区の子どもたちに「ツルの自然体験学習会」を実施してきました。

その結果、子どもたちの活動は近年さらに深まり、本年度は四万十市立東中筋小学校の5年生と6年生が「ツルの里づくり」の取り組みを積極的に引っ張ってくれました。

STEP1

ツルを学ぶ

令和5年9月14日、四万十市に越冬しに来るツルの生態や昭和の頃からの確認数の推移、これまでの保護活動のあゆみについて学びました。



これまでツルについて知っていることも少なかったけれど、今日の学習でたくさん知ることができました。



真剣に話を聞く子どもたち



四万十市に飛来するナベヅルの説明

STEP2

平面デコイを作る

9月28日、ツルを呼び寄せるための平面デコイ(模型)の作成にチャレンジしました。ツルの形にくり抜かれた板に絵を描いて仕上げました。



本物のツルに見えるように、ていねいに絵の具を塗り重ねました。

仕上がるまでに6時間くらいかかりました。



平面デコイの作り方を教わったよ。



①ベースとなる体の色を塗る ②ドライヤーで絵の具を乾燥



③翼の部分の型を取る ④翼、頭、くちばしの色を塗り重ねる
⑤目のシールを貼ったら、できあがり!

STEP3

デコイを設置する

10月27日の「秋のツルの自然体験学習会」では、四万十つるの里づくりの会がねぐらづくりをしている江ノ村の2カ所の水田に、リアルな立体デコイと自分たちで作った平面デコイを4体ずつ設置しました。



平面デコイは、小学校の近くにも設置しています。このデコイのそばにツルが降りていたようです!



力作を持っていざ出陣!



平面デコイの設置



立体デコイの設置



越冬中のナベヅルの家族

1月下旬からは、子どもたちが置いた立体デコイの間で寝ています(R6.1.27)

STEP4

地域に伝える

11月25日には、地元で親しまれている「四万十つるの里祭り」が開催されました。

6年生は、越冬地分散化に向けて自分たちが取り組んできたことを新聞やパネルにまとめ、クイズも交えて楽しく発表しました。5年生は、環境学習の一環として自分たちが育てたもち米を販売しました。



僕たちのツルを呼ぶ活動を「ツルホイホイ大作戦」と名付けました!



6年生の学習成果発表



新聞はかなりの力作です



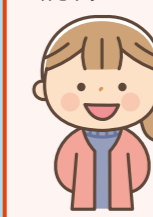
5年生のもち米販売

STEP5

出水市とつながる

令和6年1月25日、ツルが集中して越冬する鹿児島県出水市の切通小学校とオンライン授業を行い、6年生同士が情報交換を行いました。

切通小からは、ツルがたくさん来ることのメリットなどを教えてもらいました。東中筋小からは「つるの里祭り」での発表をブラッシュアップして説明しました。



きれいな鳥が身近に見られること、観光客がたくさん来てくれることがメリットだそうです。小学生もツルのガイドをしているみたいです。



発表中(ちよっぴり緊張している様子でした)



発表を終え、質問タイムになると笑顔が戻りました



切通小の子どもたちと記念撮影!